

幕末の災害・疫病

間違った情報が広まってしまうと、それを訂正するのは容易ではありません。

幕末に大きな災害・疫病が発生しました。1853年のペリー来航の翌年に南海トラフ地震(安政東海地震・安政南海地震)が起き、その翌年に首都直下地震(安政江戸地震)が起き、またその翌年に強烈な台風が江戸を直撃しています。さらに、その2年後に江戸でコレラが大流行しています。

昨年6月に発表された土木学会の『『国難』をもたらす巨大災害対策についての技術検討報告書』に「1856年8月25日に安政江戸暴風雨が発生、大型台風が東京湾に来襲、高潮を中心とした暴風雨は未曾有の被害をもたらし、資料によっては犠牲者約10万人との記載もある」とあります。人口100万の江戸で10万人が亡くなるというのに違和感がありました。ウィキペディアなどに『『近世史略』に死者10万人とある』と紹介されていたので、『近世史略』の原本を確認したところ、「八月東國大風雨江戸ノ死傷凡十萬餘人」となっており、負傷者も含んだ数字でした。

台風被害の記録『安政風聞集』の図を見ると、高潮で船が打ち上げられ、強風のために屋根を飛ばされ、家屋が倒壊するなど、かなり勢力の強い台風であったことが想像されます。ただ、『安政風聞集』に「軒毎の損亡八、地震の折に十倍せしかど、幸ひにして、人の死亡ハ去年の十が一にもあらず」と、死者数は安政江戸地震(『理科年表』の死者数は1万人)の10分の1以下とありますので、負傷者を含んだ数字だとしても10万人は大き過ぎます。

『近世史略』は、明治の初めに出版された図書で、幕末維新の歴史を教科書風に解説したものです。明治4年に初版が発行され、その後、西南戦争など新たな事件を取り込んで、何度も改定されました。明治新政府が検閲しているため、幕末の混乱する江戸の様子を誇張した可能性が高く、安政江戸地震が「死亡ノ者凡十萬四千人」、安政5年のコレラが「江戸死スル者凡三十萬人」と、一般にいわれている被害の約10倍の数字になっています。



▲『安政風聞集』(東京都中央区日本橋付近)

江戸のコレラについて、ウィキペディアに「1858年(安政5年)における流行では九州から始まって東海道に及んだものの、箱根を越えて江戸に達することはなかったという文献が多い一方、江戸だけで10万人が死亡したという文献も存在するが、後者の死者数については過大で信憑性を欠くという説もある。」とあるのですが、これも間違っています。

安政5年のコレラが「箱根を越えて江戸に達することはなかった」という文献は見つかりませんでした。江戸の死者数は、史料によって地域・期間・対象が異なるため、よくわかりません。比較的最近発行されたコレラの医学書には、死者3万人と紹介されていました。

某氏の所蔵に係る筆記には八月朔日より同二十日に至るまで江戸市中町人の死亡調を町奉行へ書上たる数は男女合せて四萬〇六百九十一人又同断にて諸寺院より屋敷、町とも死亡葬送の分書上高は四萬二千六百九十九人とあり嘉永明治年間録には七月二十日頃より九月十日頃に至るまで凡五十日間に於て武家及寺院町方等人別書上に脱漏せし者を差加ひ死亡凡三萬人又寺社奉行より諸寺院の届書に係る九月中の調書を出せしには死亡人員総計二萬八千四百二十一人内土葬九千九百二十三未だ届け出てざる分は追て取調ふへしとあり是皆初発より終焉に係るものにあらずと難ども爰に註して以て参考に供す

(『日本災異志』)

ある人が所蔵している史料に、「町奉行への報告に、8月1日から20日までの間、江戸の町人の死者数は男女あわせて40,691人」、「諸寺院、武家、町家の葬儀数は、42,699件」とある。『嘉永明治年間録』には「7月20日ころから9月10日ころまでの約50日間に、武家・寺院・町家・人別書に漏れた者も加え、死者約30,000人」とある。諸寺院が寺社奉行に届け出た9月中の調書に「死者28,421人、うち土葬9,923人。まだ届け出がないものは、これから調査する」とある。これらの史料は、どれもコレラ発生から終息までの総死者数ではないが、参考になると思われるので紹介する。

アメリカ・イギリス・フランス・オランダ・ロシアとの修好通商条約の締結とコレラの大流行が重なったため、幕府の責任を問い、攘夷の動きが高まったといわれています。

教科書には、ペリー来航が幕末維新のきっかけになったように書いてあるのですが、個人的には、そのころに災害・疫病が頻発した影響のほうが大きかったのではないかと考えています。